

東海経済レポート（2016年1月）

～引き続き緩やかな回復基調ながら、海外経済・金融市場変動の影響には要留意～

経済調査室（名古屋）

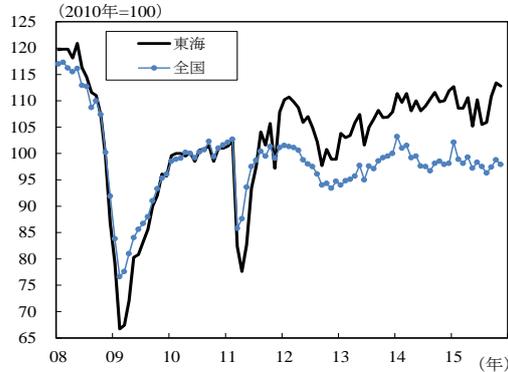
1. 足元の経済情勢

- ✓ 生産は、11月に前月比▲0.5%と4ヵ月振りに減少。業種別では、輸送機械、生産用機械、電子部品・デバイスがともに減少。ただ、水準としてはリーマン・ショック以降で最高となった10月に次ぐ高位。
- ✓ 設備投資は、大企業の7-9月期実績が前年比+18.1%と3四半期連続で2桁の増加。先行指標とされる金属工作機械の国内受注額は、11月に前年比▲4.7%と、2ヵ月連続でマイナス。
- ✓ 輸出額（円ベース）は、11月に前月比▲0.1%と2ヵ月連続で減少となったが、6月以降の回復基調を維持。米国向けが底堅さを保ったほか、EU向けは11月にリーマン・ショック後の最高水準を記録。
- ✓ 雇用は引き締まった状況が続く。11月の有効求人倍率は、愛知県が1.56倍と3ヵ月振りに上昇。岐阜県は1993年2月以来の高水準となる1.60倍へ、三重県もリーマン・ショック前の水準である1.37倍へ、それぞれ上昇。
- ✓ 個人消費は、11月の小売主要3業態の販売が前年比+0.5%と、8ヵ月連続でプラス。11月の新車販売台数は前年比▲8.1%と、3ヵ月連続でマイナス。
- ✓ 住宅着工は、11月に2ヵ月振りの増加。ただ、年率換算で7.4万戸と、力強さは引き続き見られない状況。

2. 当面の注目点・リスク要因

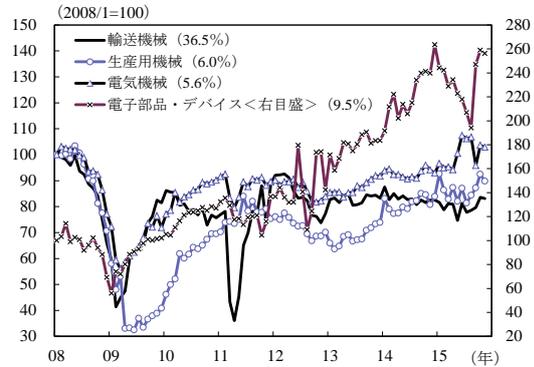
- ✓ 足元までの経済指標からは、東海経済が引き続き緩やかなペースで回復を続けていると判断される。
- ✓ ただ、世界経済の先行き懸念の高まりなどを背景として、資源価格の下落加速や為替相場における円高進行など、足元の金融市場には変動が見られる。輸出型産業が集積する東海経済にとっては留意を要する状況。
- ✓ 当面の注目点は、①資源価格下落や新興国の通貨安等に伴う世界経済の変調、為替相場変動による地域経済への影響、②人手不足への対応や設備投資・賃上げを通じて好循環が維持・継続されていくかどうか、となる。

生産① 11月の鉱工業生産指数は前月比▲0.5%と4ヵ月振りに低下。但し、リーマン・ショック以降で最高となった10月に次ぐ水準を維持。



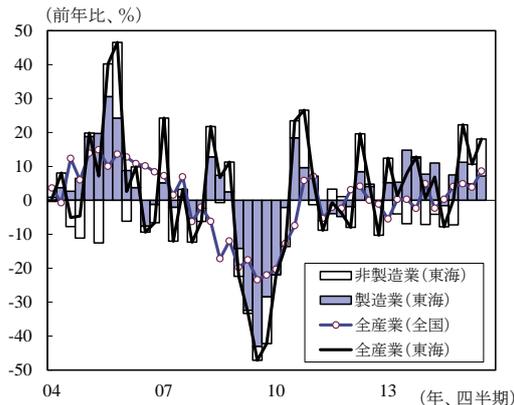
(注)1. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。
2. 季節調整値。
(資料)中部経済産業局統計等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

生産② 業種別では、11月は輸送機械、電子部品・デバイス、生産用機械がいずれも減少。



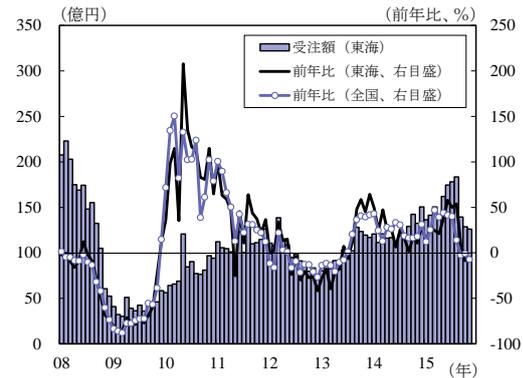
(注)1. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。
2. 季節調整値。
3. ()内の数字は、業種毎の付加価値額の比率(H22年基準)。
(資料)中部経済産業局統計等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

設備投資 7-9月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資は、前年比+18.1%と3四半期連続で2桁の増加。伸び率も全国を上回る。



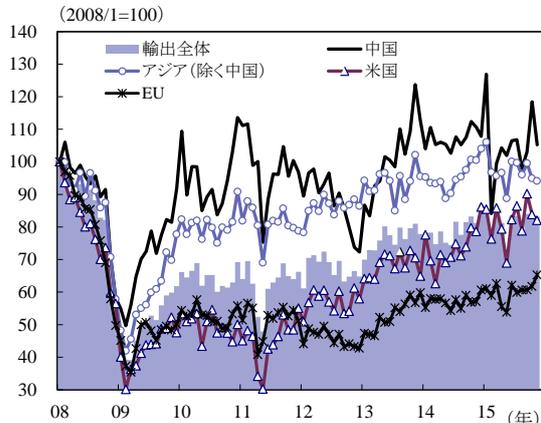
(注)1. 東海は愛知、岐阜、静岡、三重の4県。
2. 資本金10億円以上の企業を対象。
3. 設備投資額はソフトウェアへの投資を除いた金額。
(資料)東海財務局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

金属工作機械受注(国内) 設備投資の先行指標とされる金属工作機械の国内受注額は11月に前年比▲4.7%と、2ヵ月連続でマイナス。



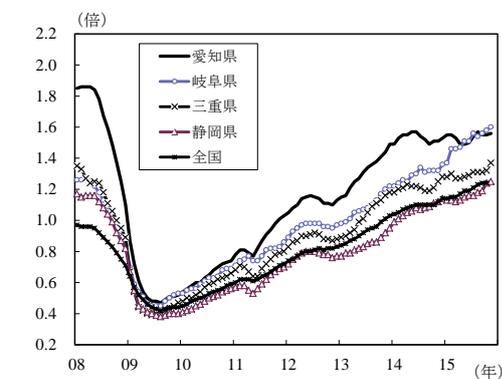
(注)1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社。
2. 受注額は当室による季節調整値。
(資料)中部経済産業局統計等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

輸出 11月の輸出額(円ベース)は、前月比▲0.1%と2ヵ月連続で減少。EU向け輸出はリーマン・ショック後の最高水準を記録。



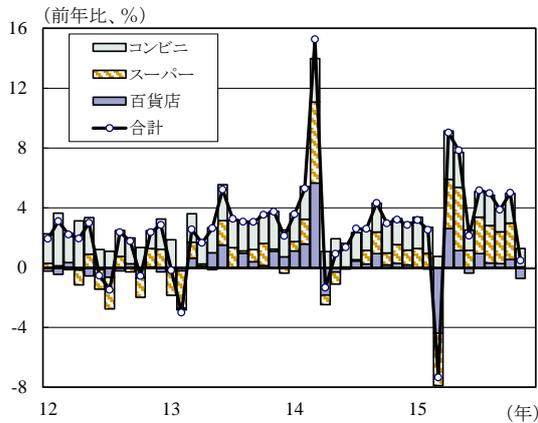
(注)1. 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
2. 当室による季節調整値。
(資料)名古屋税関統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

雇用 11月の愛知県の有効求人倍率は1.56倍と3ヵ月振りに上昇。岐阜県は1993年2月の水準へ、三重県もリーマン・ショック以前の水準へ、それぞれ上昇。



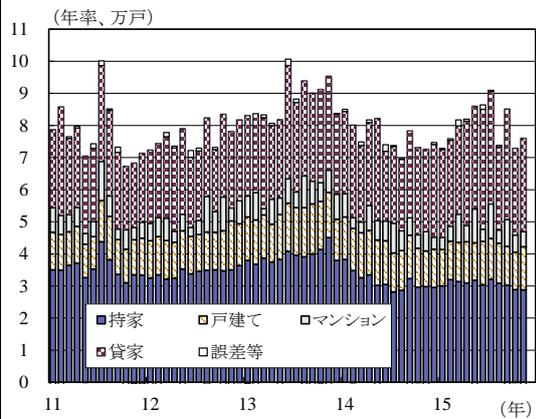
(注)1. 有効求人倍率=有効求人数÷有効求職者数。
2. 季節調整値。
(資料)厚生労働省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

個人消費 11月の小売主要3業態の販売は前年比+0.5%と、8ヵ月連続でプラス。



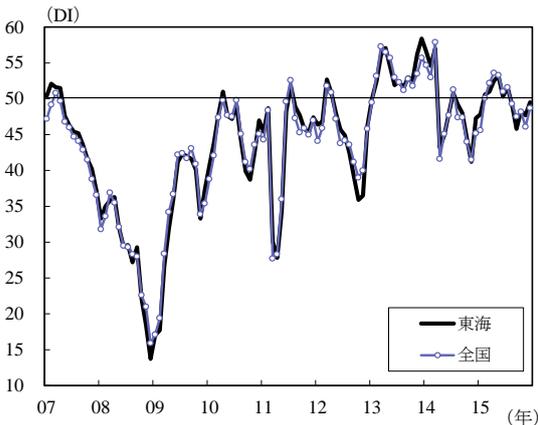
(注) 1. 愛知、岐阜、三重、富山、石川の5県。
2. 当室による季節調整値。
(資料) 中部経済産業局統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

住宅投資 11月の住宅着工戸数は年率換算で7.4万戸と、2ヵ月振りに増加。



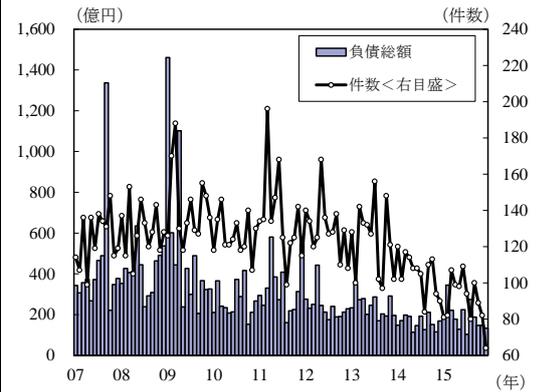
(注) 1. 愛知、岐阜、三重の3県。
2. 当室による季節調整値。
(資料) 国土交通省統計より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

景気ウォッチャー調査 12月の景気現状判断DIは49.5と、5ヵ月連続で50.0を下回った。前月比では+1.8ポイントの改善。



(資料) 内閣府資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

倒産件数 12月の企業倒産件数は64件と、前年比▲28.9%の減少。負債総額は同▲20.8%と減少。なお、2015年(暦年)の倒産件数は2000年以降で最小となった。



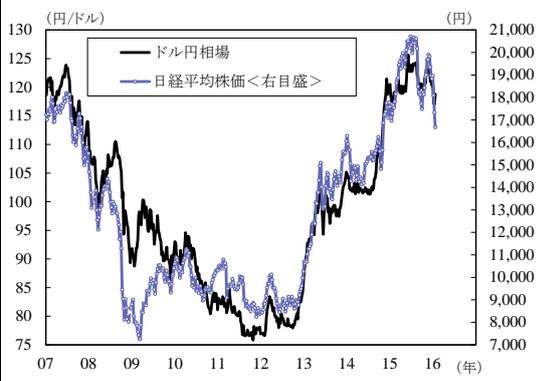
(注) 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
(資料) 東京商工リサーチ資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

原油価格 WTI先物は、中国ほか新興国経済の減速や、イランの増産見通し等を受けた需給バランスの更なる悪化懸念から、一段と下落。1バレル30ドルを下回る水準を記録。



(注) 原油価格はWTI先物。
(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

円相場・株価 世界経済の失速不安等に伴うリスク回避姿勢の強まりから、為替相場は1ドル117円前後まで円高・ドル安が進行。日経平均株価も年初から大幅下落。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H28.1.25 中村 健彦 takehiko_nakamura@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。